



MINISTRY OF TOURISM AND
WILDLIFE, KENYA



MINISTRY OF NATURAL RESOURCES
AND TOURISM, TANZANIA



第 9 回アフリカ開発会議(TICAD 9)テーマ別イベントのご案内

アフリカにおける人間と自然の対立を監視するデジタル公共インフラ(DPI)と地域指揮統制センター(CCC)

ルサカ協定タスクフォース(主催)と一般財団法人リモート・センシング技術センター(共催)は第 9 回アフリカ開発会議(TICAD 9)においてテーマ別イベントを開催いたします。本イベントは、アフリカ地域における気候変動、人間と野生生物の衝突、密猟、違法な野生生物取引など、深刻化する人間と自然の衝突に対処するためのデジタル公共インフラ(Digital Public Infrastructure; DPI)と地域指揮統制センター(regional Command and Control Center; CCC)の設立に焦点を当てたものです。

このイニシアチブはナイロビに拠点を置く CCC を中核とした、国際連合のクラウドシステムを活用した DPI によって、国境を越えた協力と自然災害への対応を可能にするもので、国連開発計画(United Nations Development Programme; UNDP)のデジタル公共インフラフレームワークおよび国際連合総会決議 A/79/L.96「Combating illicit wildlife trafficking」に対応しています。LATF が DPI プロジェクトを主導し、アフリカ諸国政府、国際連合機関、および RESTEC が実施しています。DPI では生物多様性と気候変動に関連する複数の空間・非空間データを、国際連合がホストするクラウドサーバー上で統合します。これらのデータセットは、GIS を含む高度なリモートセンシングと衛星技術とを組み合わせることで活用され、人間と野生生物の衝突、密猟、違法取引、および国境を越える気候変動の影響を監視し対応するためのデジタル公共財(Digital Public Goods; DPGs)の開発に活用されます。

本イベントでは、ケニア共和国大統領である William Ruto の基調講演に続き、アフリカ諸国の政府関係者、地域機関、日本の主要政府関係者および技術専門家によるパネルディスカッションを行います。このイベントでは、世界中の主要な学術機関が一次データを活用した研究を実施して、アフリカ諸国が直面する課題に対応するために、CCC が施設を提供する仕組みについても説明します。また、アフリカの研究者が革新的な技術を通じて生物多様性保全に貢献する雇用機会を創出することも目的としています。

アフリカの大自然の生態系と人々の持続可能で安全な未来を築くために、本イベントにご参加ください。下記 QR コードからも参加登録をしていただけます。





TICAD 9 テーマ別イベント開催情報

アフリカにおける人間と自然の対立を監視するデジタル公共インフラ(DPI)と地域指揮統制センター(CCC)

【日付】2025 年 8 月 20 日

【時間】15 時 20 分～16 時 50 分

【会場】パシフィコ横浜 展示ホール D、S-03

【定員】250 名(シアター形式)

アジェンダ

司会者: Remi Chandran(一般財団法人リモート・センシング技術センター 参事)

15:20 – 16:00 | オープニングセッション

- Rebecca Miano(ケニア共和国 観光・野生生物省大臣)
- 池田 要(一般財団法人リモート・センシング技術センター 理事長)
- Pindi Chana(タンザニア連合共和国 自然資源観光大臣)
- 矢野 哲朗(一般社団法人アフリカ開発協会 会長、元外務副大臣)

16:00 – 16:10 | 基調講演

- William Ruto(ケニア共和国 大統領)

16:10 – 16:50 | パネルディスカッション

テーマ: アフリカのための地域指揮統制センター(CCC)とデジタル公共インフラ(DPI)の構築
パネリスト:

- Edward Phiri(ルサカ協定タスクフォース ディレクター)
- Shadrack Ngene(ケニア共和国 観光野生生物省大臣)
- 高見 純平(国連宇宙部 UN-SPIDER プログラム アソシエートエキスパート)
- 長野 悠志(独立行政法人国際協力機構 DXLab 長)
- 池田 要(一般財団法人リモート・センシング技術センター 理事長)

司会: 井田 徹治(一般社団法人共同通信社 編集委員、学習院大学 特別客員教授)

※敬称略

